

1. 開会 徳永

2. 部門長挨拶 尾崎

台湾の方々が大勢参加していただきありがとうございます。この交換会は、日本と台湾との両国での胡蝶蘭生産における国際分業が進む中で、お互いの問題点を少しでも国単位で解決することを目的としています。

少し前ではバイラスの問題がありましたが、しかし今では台湾の協力によりほとんど問題にされない程度になってきております。今後の日本と台湾関係についてという議題で話し合いをしたいと思います。私の感覚では、今までは日本側から台湾側への要望が多かったが、これからは台湾側から日本の生産者に意見が多くなると思われます。我々は、同じ胡蝶蘭を生産する中でビジネスを進めています。だからこそ意見交換をし、同じ目標に向かって進むべきではないか。是非、実のある交換会にして頂きたいと思う。

3. 台湾側 前会長 頼さん

日本の皆さん、役員の方々、このような交流会が出来ましてありがとうございます。米田先生から、福岡で顔を合せてからこの会が続いていることに感謝いたします。先日の東日本大震災から、日本の生産者は花にステッカーを貼り義捐金活動をしているときいております。台湾側から致しても、台湾の花として紹介されているものには同じように協力するよう皆に伝えようと思います。今回感謝するのは、関係機関の人たちが多く参加できて嬉しく思います。この数年の間にバイラスを含め多くの問題ができています。台湾側でもそれらを解決できるよう頑張っていきたいと思います。台湾では毎年らん展、ICOGO セミナーの活動をしていますので日本の皆さんもぜひ参加してほしいと思います。

4. コーディネーター 大野

今回はせっかくの機会なので本音で話せるような交換会にしていきたいと思いますので協力よろしくお願い致します。

・中華盆花協会の代表者発表スライドで説明

白の大輪の花の問題、オランダと台湾での研究の結果を発表する。

ステム1本に12輪から15輪全花キープできるようにしたい。

3本寄せの白の大輪の花に問題があったときは、いくつかの原因が重なりあったときに起きたと思う。

花ふけ、ヨーロッパでも咲いていた。ヨーロッパでは黄色の花でも同じ症状が出ている。

・研究結果

① リン酸が不足しているのではないか。②N.P.Kの比率のバランスが取れていないのではないか。③湿度が高すぎる、日照が足りないか。

オランダでは、苗の充実度が足りないと同じ症状が見える。私が協調したいのは2〜3の原因が入っているからそのような症状が出るのではないかと考えている。

日本の生産者でみられるシワ、ギザは2種類のバイラスが原因ではないか、検査の結果ORSVが一番の悪い要因にあたる。

水苔のECが高いのも一つの原因。株が若いのに開花させたのも原因か。日本に来て株が慣れないうちに冷房処理されるのも原因の一つ。台湾で研究した結果3つのバイラスが発見されたその一つにORSVがあった。シワ、フケはバイラスが原因であるといえる。オランダではバイラスではなく、ECが高いのが原因となっている。台湾側ではバイラスフリーの苗を提供できるようにしている。生産者は現在、変異の問題が挙げられている。一つにバイオのときに変異の組織バイオが原因ではないかと思われるオランダでは3%以内なら仕方がないと言っている。台湾でもフラスコ15本で移植しているが、16本植えている保証に1本多く入れている。組織バイオはホルモンの成分をいかに低く抑えるかが問題になっている。

もう一つは、やり方の問題が挙げられる。冷房処理した株にホルモンを与えているのも原因か（BA）の使用は現在調べているところです。花にスポット（しみ）ができるのは、加湿が原因である。台湾の生産者としては健全な苗を提供できるように頑張っているつもりです。日本に出荷するときに無病苗、無虫苗を送りたい。水苔のECが多すぎるのも問題であるので、日本で咲いたときにより花が咲くような苗を送りたい。問題をなくして、よい苗を提供したい。台湾側では、栽培のときに問題を起こらない苗をつくらうとしている。日本の業者と台湾の業者はうまく出来るリレー栽培を考えなければならない。台湾では、出荷するときに無病であるが日本で栽培したときに問題が出るのは環境が違うのが原因ではないか。日本に来ての環境と台湾の環境を情報交換しなければならぬのでは。日本で咲いたとき問題があったときにその原因を両方で解決していかなければならない。台湾と日本の環境の違いも確認しなければならない。台湾では、良苗を送ったが、日本に来て悪くなったとき両国の組織で問題を解決する組織作りがほしい。日本の生産者は、葉の数が多く大きな苗を望んでいる。台湾では、2.5寸の苗から4寸の苗で最低8ヶ月作りこんでいる大きな苗は管理が大変である、水、肥料の施し方が大変である。台湾の希望としては、7枚の葉で製品としその後、日本の環境でももう少し作りこんでほしい。日本側ではコストが掛るからやりたがらないのではないか。日本側では開花まで成長している苗を開花処理するから花芽の発生がばらつくのではないか。一つの例として、V3の品種で台湾の農場で違う条件で作られた苗を咲かせているから問題が出るのでは、日本の生産者はいくつかの農場から苗を仕入れて栽培している、違った環境で作られた苗なので問題が出るのではないか。もっと意見交換をしなければ問題解決にならない。台湾側は、良い苗を提供するよう努力しているので日本側でも、環境、水やりに気を配り良い条件で花を咲かせるよう努力してほしい。温室内の環境を同じくしてほしい。日本に歓迎される品種を両国で研究していかなければならない

のでは？アメリカでは白の大輪は30%その他が増えている状況。台湾の生産者と日本の生産者は、お互いをもっと理解し合わなければならないのでは、日本で花が咲いてから品種を判断すべきであり、胡蝶蘭は台湾の高温で苗を生産し、日本の寒い環境(低温)で咲かせるから理想ではないか。同じ産業者として頑張っていきましょう。台湾側も日本側もこの花を楽しんでもらえるよう頑張しましょう。明日見学する上で、日本ではどのような環境で栽培されているか勉強できるので楽しみです。来年の台湾のらん展にも是非来て下さい。このような意見交換会ができるように、又、大勢の人が集まれるようにしたいと思います。

5. 意見交換

日本側（茂木）

台湾側の説明は理解できたが葉の枚数が、7～8枚とか3.5寸18ヶ月成苗とか日本側ではフラスコ出しから20ヶ月で4寸成苗で考えている。今問題になっているのは奇形です。毎月、毎月3.5寸の苗が冷房室に入れて5ヶ月後に奇形が見られたら5ヶ月間の苗は、すべて奇形だったら打撃が大きい。両方ともにリスクが大きくなるのではないか。一部の苗農家はこのロットなら奇形がないというのを確認してから出荷している。是非ともすべての農家はそうしてほしい。3寸の苗から小さな苗でも冷房室を持って頂いて、花を咲かせて確認できるのではないか？ヨーロッパ、アメリカでもそう望んでいるのではないか。お互いにクレームを出したくないので是非ともお願いしたい。日本では品評会の花をほしいわけではない。「18ヶ月の苗はこうですよ」「18ヶ月の花はこういう花ですよ」と各農園で展示してほしい。V3の病気の問題について大きい苗、古い苗になるほどみられる。それが温室の設備にあるのか、環境にあるのか、何処に問題があるのか議論していただきたい。

台湾側（会長）

世界中で生産コストが問題になっているが苗のロス率を減らすのは両国で話し合い、何が問題なのか解決しなければならないのでは。日本側では1年間どのくらい苗が必要なのか？台湾でも余計に苗を作るとコストがかかるので問題である。台湾でも経営管理が重要になってきている。この需要と供給を協力し合って、いかに無駄のないように生産体制をしなければならないのでは？両国でもっと話し合いが必要なのではないか。

司会者（大野）

今のこの業界は台湾側も日本側も互いに必要なのではないか。これからも、日本側に苗を多く提供していく中で、台湾側から日本側にここがおかしいのではないか、又、要望はないですか？

台湾側

現在、日本側は台湾から苗を供給しなければならない状況になっている。今までは台湾の生産者がよい苗を供給したのに日本の生産者側に納得してもらえなかったことが

ある。この交換会で台湾側と日本側の違いを教えていただきたい。両国のリレー栽培がより一層深いものになるよう願います。日本の生産者と商売する上で、16ヶ月と18ヶ月の苗の違いを確かめられてその苗の花を見られる施設は必要だと思う。台湾側でも低温処理できる施設を作る方向で頑張っていきたい。

日本側（茂木）

日本でフラスコ出し。苗から開花まで一貫経営している坪単価一番設けている栗田さんの経営方針を説明してほしい。（栗田）フラスコから製品3.5寸、4寸まで95%以上を目標にしているロス率が経営に問題視されている中で、いかにロスを出さないように心がけている。そのために温室内を清潔に保つよう心掛けている。ごみがない温室、雑草がない室内、古くなった被覆材の貼り替え。台湾側の温室は見たことはないが自宅では病気の株がないようにしている、殺菌剤も植え替えのときにするだけである、間口10m～12mの大きい温室で生産している。

台湾側（恵川）

日本の温室は、天窓がある。台湾では温室の外と内では5℃の温度差がある。風があると2℃、外が35℃で内は41℃～42℃湿度も高い。パットアンドファンを使用すると外が35℃で内は28℃～29℃になる。夏の湿度が高いときに病気の問題が出る、夕方温度が下がるとパットアンドファンをとめるのも弊害が出る。今は夕方は水だけを止めてファンは40分回してから止めるようにしている。ファンは病原菌が付いているところだからファンを回すと菌が温室に入ってくるから病気が発生しやすい。日本と環境が違うから台湾の生産者に環境整備の指導を進めていくつもりである。皆様に質問アメリカ、ヨーロッパの人々は、50歳以上の人は好きな花を買い続けるが、50歳以下の人はいろいろな花を考えて買っている。胡蝶蘭も同じで50歳以上の人は白を買い続けるが、50歳以下の人はいろいろな色の花を考えて買っている。日本の人たちもそうでしょうか？日本では60%～70%白の大輪が売れているが台湾ではピンク、黄色、変わり花を育種しているが日本市場に向けた花作りをしていかなければならない。

日本側（椎名）

日本の贈答需要が頭打ちである。大輪は値が張る、管理が難しい。若い人が手軽に買ってくれる胡蝶蘭が必要である。胡蝶蘭といえば大輪であると認識している人が多い、又、店側でも胡蝶蘭は難しいといわれて「はい、そうです」と答えてしまう店員も問題である。台湾に行くと珍しい花が多いがいろいろな人に見てもらふ施設も必要ではないか、品質がよく花が長持ちする胡蝶蘭を作してほしい、台湾側に要望したいと思っています。

6. 資料説明（尾崎）